2009年（平成21年）12月2日（水曜日） 北海道新聞（夕チリ）

看護職確保 知恵絞る

診療報酬増へ道内病院

手を握り笑顔で患者と接する看護師山内孝子さん（左）。超短時間勤務制度を利用するパート職員だ

札幌など道内の都市部を中心に、看護職員の確保策に工夫を凝らす病院が増えている。2006年度の診療報酬改定で、一定水準の看護職員数を確保すれば病院収入が増える仕組みが導入され、それ以降続いている「看護職員争奪戦」が一段と激しさを増していることが背景にある。1カ月1時間からでも働ける「超短時間勤務制度」など、各病院は人材集めに知恵を絞っている。

超短時間勤務制度を導入したのは、医療法人シオン。制度を利用して11月初めから札幌市中央区のシオン山鼻北病院で働く看護師山内孝子さん(50)は「以前に勤めていた病院と違って時間外勤務もなく、家事と仕事が両立できる」と話す。

同制度では、時給は900～1400円で正職員の看護師と比べると半分以下だが、勤務時間や日数は原則、希望に応じる。担当は主に転院付き添いなど常勤の負担を減らす業務。日向明美看護部長は「復職希望者からの問い合わせが多い」と手応えを語る。

恵庭市の恵み野病院は、24時間保育所で看護職員の子供約130人を預かる。学童保育も昨年から始め、看護師を目指す准看護師の進学支援も行う。これらを合わせた費用は年間約6千万円に上るが、足立普事務長は「質の高い看護のためには必要な経費」と言う。

06年度の診療報酬改定では、入院患者数に対する実働の看護職員の割合について、従来の最高報酬区分だった「10対1」の上に「7対1」を新設。入院患者1人につき1日当たり病院に支払われる診療報酬（入院基本料）は「7対1」が「10対1」より約3千円多く、人件費はかかっても、区分を一つ上げた方が病院収益は上がるとされる。

このため、病院間の看護職員確保に向けた競争が激化。北海道看護協会（札幌）が運営するナースバンクでは、看護職員の求人数が06年度以降、08年度まで7千人台で推移しているのに対し、求職者数は06年度以降、4千～5千人台にとどまり、売り手市場が続いている。

札幌で病院などを経営する医療法人渓仁会は今年10月、約3400人の職員（社会福祉法人分も含む）が加入する健康保険組合を新設した。

これまで渓仁会の職員は、中小企業の従業員らが加入する全国健康保険協会（協会けんぽ）に入っていたが、組合新設で今後は独自のサービスが可能になる。担当者は「インフルエンザのワクチン接種への補助など、職員のニーズに合わせた支援を検討し、看護職員の確保につなげたい」と話している。

月1時間勤務もOK／学童保育や健保組合を新設